

## 令和3年度 境港市第三中学校区 学校運営協議会(第1回)

進行：高濱禎彦(学校事務局)  
記録：森野 謙(会場校教頭)

### ○参加委員(20名)

- ①渡部雅之(第三中学校長)
- ②植田伸一(渡小学校長)
- ③松尾忠光(外江小学校長)
- ④早川輝彦(渡公民館長)【会長(令和2年度及び令和3年度)】
- ⑤水落篤(渡地区社会福祉協議会理事)
- ⑥松本紀和子(渡地区民生児童委員副会長)
- ⑦渡邊冬樹(境港青年会議所直前理事長)
- ⑧山口めぐみ(渡小学校PTA環境衛生部長)
- ⑨森野謙(渡小学校教頭)
- ⑩三好伸作(境港市外江地区連合自治会長)【副会長(令和2年度及び令和3年度)】
- ⑪松浦友三(外江公民館長)
- ⑫藤井慶一(外江小学校PTA会長)
- ⑬藤原誠(外江小学校PTA副会長)
- ⑭渡辺正子(外江保育園長)
- ⑮岡田友志郎(外江小学校教頭)
- ⑯高濱禎彦(第三中学校教頭)
- ⑰木下晴夫(第三中学校PTA会長)
- ⑱高梨典子(第三中学校区地域学校コーディネーター(CN))
- ⑲十河淳(渡公民館運営審議会委員長)
- ⑳松本晶彦(外江公民館運営審議会委員)

### ○境港市教育委員会事務局(3名)

- 柳樂力人(教育総務課課長補佐)
- 松田寛彦(コミュニティ・スクール(CS)推進員)
- 竹本夏樹(生涯学習課社会教育主事)

### ○全学級授業公開(5校時14:00~14:45)

### ○協議会

1. 新委員辞令書配付
2. 境港市学校運営協議会設置等に関する規則及び設置要綱について
  - ・市教委及び学校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や学校への支援・協力を促進することにより、子どもたちの目指す姿や学校の課題解決に向けて連携・協同していく緩やかなネットワークを作っていく、活動を紡いでいくことを確認。(CS推進員)
  - ・「学校と地域でつくる子どもたちの未来」(鳥取県教育委員会令和3年3月作成)の資料をもとに説明。地域学校協働本部と学校運営協議会(学運協)が両輪となってPDCAサイクルのもとに進めていく。「活動あって組織なし」とならないよう地域と学校が目標や計画を共有し活動していくこと。学校を核とした地域づくりを中心としていく。生涯学習課からの仕掛けをおこなっていきたい。学校の地域学校CN・公民館・市教委生涯学習課の3つを相談窓口としてもらいたい。(社会教育主事)

### 3. 昨年度第4回の協議について（令和2年度会長）

- ・令和3年度は、あいさつを中心に進めていきたい。落ち着いて安心して過ごしていくために挨拶を深掘りしていきたい。
- ・「あいさつ + ひと言」を実践していきたい。見守りの人にも地域の人にも広げていきたい。

### 4. 自己紹介と授業参観の感想及び令和3年度役員選出（会長・副会長）

- ・先生方の努力や強い思いが伝わってきた。
- ・昨年度から見違えるような落ち着きぶりだった。（多数意見）
- ・興味をひくような動画や教材、掲示物等の学習環境により、子どもたちが活動的、意欲的に学んでいた。
- ・子どもたちの話を聞く姿勢が素晴らしかった。（特に低学年）また、わからないなりに反応やつぶやきがあり、それを先生方が拾いながら進めておられた。
- ・1年生の真剣さが伝わった。（保育の大切さも感じた）
- ・前のめりになって授業に臨む姿が良かった。
- ・コロナ禍だが、ぜひ学校の中の様子をみていきたい。
- ・野犬の件でも地域の方が歩いてくださる、保護者も公民館に相談に来られる。
- ・三中学校区は、楽しそうという声を聞く。地域学校CNが楽しそうに取り組んでいる。関わりが持てて嬉しい。そんな関わりを保護者に広げたい、増やしたい。
- ・子どもの頃から孤立しないようにしていけば、大人になってからも孤立しないはず。
- ・節目は大切で、新年度「新たな友達、新たな担任、新たなクラス、新たな気持ち」で子どもたちも教師もスパイラル的に（螺旋状に）関係や意欲も高まってきている。

#### ○役員選出

- ・令和3年度も、令和2年度の会長・副会長に引き続きやっていただきたいという推薦があり、拍手多数で承認。

### 5. 令和3年度会長及び副会長あいさつ

- ・「次の一手」を皆さんで決めていきたい。
- ・資料「学校と地域でつくる子どもたちの未来」とてもいいものができている。3校の校長先生方の学校経営方針の承認が大切である。

### 6. 第三中学校区教育ビジョン及び各校学校経営基本方針の説明

#### ○第三中学校区教育ビジョンについて

- ・課題を見つけ、解決・改善できるよう、また9年間を見通した目指す子ども像、中学校卒業時のゴールイメージを共有して設定した。（第三中学校長）
- ・発達段階（低・中・高学年）を考慮し、小学校のゴールイメージを設定した。三中の生徒アンケートの中に家庭学習やメディアの問いに大きな課題があった。家庭学習の定着を図った上で、中学校に送り出したい。ここ近年の1・2年生の落ち着きぶり、学習や生活のしつけがしやすい。しっかりと力をつけて保育園から送り出してもらっている。小学校も意識して中学校へ送り出したい。「それではどうするのか、これでいいのか、この姿で？」とゴールから逆算して、低（2年時）、中（4年時）、高（6年時）の節目でこれくらいの力や姿をイメージして中学校へ送り出せるように設定した。卒業する中3の春を笑顔で送れるようにしていくために協働（学校・地域・家庭）していきたい。（渡小学校長）

#### ○渡小の経営方針（渡小学校長）

- ・昨年度までの様子は、ギスギスしていてとても心配は状態だったが、落ち着いた原因は、教師の頑張りは大変大きい。しかし、CSスタート後の地域の方々の下支えがとても大きかった。全面に出てくださいましたことで、学習や活動が深掘りできた。教師は授業で精一杯の状態だったが、クラブ等でもGT（ゲストティーチャー）として学校に入ってもらったおかげで助けてもらった部分が大変大きい。教師は授業に向かえた要因として、クラブでは技や特技等の素晴らしさを伝えていただき、見守りではいち早く朝の

子ども達のコンディションをキャッチして校長に伝えてくださり、それを担任に伝えることで子どもへのベクトルを揃えたり、ゆとりを持たせてもらえたり、潤いや幅を持たせてもらったりできた。

- ・笑顔で誰もが安心して色々なことに取り組める学校にしたい。「やさしく（人権教育の視点で、自分も友達も大切にできる）・かしこく（学力向上の視点で、自ら学びわかる喜びを実感する）・たくましく（心身ともに粘り強く最後までやり抜く力）」の3本柱で設定した。
- ・各学級を屋台や出店、教師はその社長、学校をお祭り会場に例え、それぞれが個性を發揮し、お祭りを運営していくような形を作りたい。6年間でそれぞれの個性やキャラのこい教師と出会うことでたくさんの引き出しや幅、心を育てていきたい。
- ・教師と児童の関係性の中（愛情と敬意を大切に）で人権教育・特別支援教育の視点で言葉遣い（やわらかくて優しく丁寧な言葉・「くん・さん・ちゃん」付け）を大切にしていこうとすることで、これらの環境づくりを土台として教育を進めていきたい。

#### ○外江小の経営方針（外江小学校長）

- ・とても落ち着いている。ただ学習意欲はあるものの、確かな学力をつけていくことが課題。11月19日に境港市小学校教育研究会の発表があり、そこに向けて授業改善（先生の力をつけていくこと）、GIGAスクール構想としてタブレット活用の提案もしていきたい。ハード面は整ってきたが、ソフト面がまだまだである。
- ・学校教育目標も、コロナ禍ではあるができるやり方で地域・保護者とともに「体験で学ぶこと」を大切に、いい力、いい顔が見られるようにしたい。
- ・「つながり」という言葉が好きで、大切にしていきたい。地域学校CNをうまく活用していきたい。
- ・「おやじの会」を再結成し学校の草刈りや木の伐採もしていただく。（子ども達もその姿を見て育つ）
- ・「認める・ほめる・励ます」姿勢を教師と保護者がもち、子ども達の自治的な活動を促したい。「失敗から学ぶ」失敗は子どもたちにとって避けたがる面もあるが、失敗からさらに次に挑戦する意欲をもたせたい。

#### ○第三中学校の経営方針（第三中学校長）

- ・各学年3クラスとなり生徒数も少なくなっている。
- ・「共感」と「信頼」を一番に。「教師は信頼されないと子ども達は学ばないよ」と話している。自分にはいいところがある、大切にされていると自分を信頼することも大切にさせたい。（自己肯定感・自己有用感）
- ・互いに「認められ、ほめられる」ことで学力向上の糸口にしたい。語彙を習得し、たしかな（正しく・丁寧な）言葉を使っていけるようにしたい。
- ・支持的風土（何を言っても認められる）をつくっていきたい。
- ・家庭と学校の信頼関係づくりとして、アンケートのやりとりもGIGAスクール構想を活かしていきたい。（懇談の希望等）
- ・「あいさつ・掃除・聴く姿勢」の伝統の三本柱の徹底を大切にしていこう（いつでもどこでも言え、実践できるようにしたい）
- ・聴く姿勢は、力がついてきている。集会で全校生徒が集まる場でも体の向きを揃えて聴く姿が見られるようになった。

#### 7. 説明に対する質疑・承認

- ・関係性ができて、初めて次のステップに行けるのでは、と感じた。（委員）
- ・部活動の件で、外部講師の動きは進んでいるか。（委員）  
→動き始めている。土日を中心に。（第三中学校長）  
→「チーム境港」で引率や活動に活用されていくのではないかと。（委員）

- ・共通するキーワードとして、「地域とのかかわりの中でともに成長する学校」というイメージを感じた。「地域貢献」という形をこれからどう考え、どう取り組んでいくか。ケヤキ通りの一斉清掃が昨年度盛り上がったが、他の例などないか。(委員)  
→日々の活動に対する感謝をあいさつやお礼で返していくこと、関わりの中で関係を厚くしていくこと。(渡小学校長)
- 夏休み最後にあるクリーンクリーン活動がある。子どももいっしょに活動することで自分も大きくなって参加したいという思いをもたせる。また、「チョーサ祭り」に4年生が参加し、太鼓を叩き、御輿を担いでもらい、地域の祭りに参加できること。学校でも太鼓の練習をする。コロナ禍の前には、前夜祭に子ども達もカラオケ大会に参加し盛り上げていた。(外江小学校長)
- ボランティアを途切れないようにしたい。(コロナ禍で市民運動会ができず)地域の方に認められることがとても良い。学校の間を地域に提供できれば。(第三中学校長)
- ・子ども達が自ら考えて(自主的に)実施できるような場が増えるといい。子ども達は大人が持っていないような柔軟な発想を持っている。(卒園生が遊び道具をつくって持ってきてくれる。とても嬉しい)吹奏楽演奏や祭りの司会、SDGsなど取り組めるのでは。(委員)
- ・とても参考になる取り組みを紹介したい。(委員)  
【大分県玖珠町中学校の学校運営協議会の動画を視聴】
- ・総合的な学習の中で「よりよい地域にするために」何ができるか考えたり、例えば市議会議員などに「提案するためにどうしていけばいいか」「誰にどう話せばいいか」など、相談したり、学運協メンバーに聞いてみたり、また、市外から三中校区に入ってこれ地元で活躍しておられる方に思いを聞いたりするなど、いろいろな取り組みが考えられる。学運協委員同士が、気持ちや目標・目的を共有し合議体として話し合い、折り合いをつけて行くことで、大きなもの(成果)として返ってくると思う。(第三中学校教頭)
- ・大きなテーマ「あいさつの響き合う地域・学校・家庭づくり」の下、地域貢献の一つとして、いっしょに活動できる「ケヤキ清掃活動」がいいのではないか。中学生は即戦力だ。また、市民運動会では「主役の座を生徒に！」種目や運営も任せてみてほしい。(会長)
- ・職場体験事業(ワクワク境港)はぜひやってほしい。(委員)  
→中学校区ごとに2年生が、9月ごろ実施予定である。(第三中学校教頭)
- ・まちコミメールの活用では、三中卒業生の保護者も登録から削除せず、学校などの行事を発信し、子どもが卒業しても支援してもらえるようにした。ケヤキの活動の呼びかけも、まちコミを通じて「地域の住人」として参加してもらえることをねらっている。(委員)
- ・ケヤキの活動に中学生が参加してくれ、大変喜んでいる。ぜひ、小学生も親子で参加して欲しい。大歓迎。(副会長)
- ・ケヤキ活動のPRは、ひと月に1回、放送(地域・校内)して呼びかけたり、子どもから保護者に宣伝したりできるまでになるとよい。人とのつながりの場としてとてもよい。(委員)

◎経営方針の承認の確認→拍手多数で承認。

## 8. 意見交換(質疑の中で既に出てきたことの確認)

- ・ケヤキの一斉清掃活動の参画の一本化で取り組んでみては。「いくこと」が目的ではなく、終わってからどうするか、「あいさつの響き合う地域・学校・家庭づくり」のもと、ケヤキの活動にたいして、学校・家庭・地域のそれぞれができることで動き出していくのがよいのではないか。「地域で学ぶ場」であり、学校ばかりが呼びかけて引率するというものでは意味がなく、地域・家庭の関わりが大切。(第三中学校教頭)

- ・10月末から始まるが、渡校区が終わってからも、外江校区の活動に来ていた渡地区の三中生徒もいた。とても嬉しかった。（委員）

#### 9. 年間計画について

- ・学運協は年3回の予定。
- ・熟議（拡大学運協）を6/19（土）の午後に予定。会場は三中体育館。学運協委員20名、教職員、地域、保護者、三中生徒。三中は出校日予定。（規模等、新型コロナウイルス感染症の状況による。）
- ・第2回を9～10月 会場：第三中学校
- ・第3回を2月 会場：外江小学校

#### 10. その他

- ・準備は事務局が行う。3校教頭が地域連携担当になっているので、会場校の教頭が記録を担当し、市教委や関係者評価の資料記録とする。
- ・次回から、進行は副会長が行う。

#### 11. 会長あいさつ

- ・今日は、今後に向けて有意義な話し合いができた。今後もよろしくお願ひしたい。